

平成27年度 第5回弘前市廃棄物減量等推進審議会 会議要旨

- 日 時 平成28年3月24日（木）13時30分～
- 場 所 弘前地区環境整備センター 管理棟3階会議室
- 出席者 内山委員（会長）、高野委員、安東委員、太田委員、川越委員、
鈴木委員、高木委員、竹谷委員、館委員、戸澤委員、藤田委員、
三橋委員、八木橋委員
- 欠席者 一戸委員、田澤委員、福士委員
（委員16名のうち13名が出席）
- 事務局【都市環境部】
秋元環境管理課長、川村参事、鈴木参事兼環境事業所長、
福士資源循環係長、田沢環境事業係長、吹田総括主査、齊藤主事
【上下水道部】
佐藤工務課長、棟方工務課長補佐
- その他 エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社 1名
（弘前市一般廃棄物処理基本計画策定支援業務委託業者）
- 資 料
 - ・弘前市一般廃棄物処理基本計画【本編】（案）
 - ・弘前市一般廃棄物処理基本計画【資料編】（案）
 - ・弘前市一般廃棄物処理基本計画【概要版】（案）
 - ・答申書（案）
 - ・【資料1】 廃棄物施策の実施状況について
 - ・【資料2】 平成28年度に実施する主な施策
 - ・【参考1】 ごみ組成分析調査結果について
 - ・【参考2】 関連法令・条例・計画の動向
- 内 容
 - 1 開 会
 - 2 会 議
 - （1）弘前市一般廃棄物処理基本計画の策定について
 - ① 組成分析調査結果について
⇒【参考1】 について事務局より説明を行った。

- ② パブリックコメントの実施結果について
⇒2月18日～3月3日までのパブリックコメントの結果、「意見なし」であったことを事務局より報告した。
- ③ 計画（案）の変更点について
⇒計画（案）の16ページ中段の「②事業系ごみ」について、2点の修正を報告した。
- ・「事業系ごみ」の定義づけについて、修正前は事業活動により生じるごみを「事業系ごみ」とし、「事業系ごみ」の中に「事業系一般廃棄物」と「産業廃棄物」があるとしていたが、「事業系ごみ」を一般廃棄物のみ限定した。
 - ・「事業所から排出されるごみのうち「燃やせないごみ」は産業廃棄物であるため、産業廃棄物として適正に処分する必要があります。」の表現削除。
- ④ 答申書（案）について
⇒答申書（案）について事務局より説明。

【（1）に対する意見・質問等】

『①について』

- ・事業系ごみの調査については、多量排出事業者対策など、他の施策と関連性を持たせながら実施するとよいと思う。
- ・家庭系ごみの調査については、調査結果を住民にお知らせするなどして、よりごみの減量化・資源化が進むような対応をお願いしたい。

『②、③について』

⇒特になし

『④について』

（家庭系ごみの有料化について）

- ・有料化の実施については、他都市の例によると、実施までには長い時間を要すると前回の審議会で事務局から説明があったため、計画の目標の達成に向けて、計画的に検討を進めていく必要だと思う。
- ・有料化が本当に必要かどうかを含め、広く市民や専門家の意見を聞くなど、来年度早々に検討を始めてはどうか。
- ・「早期検討が必要です。」の中の「早期」という表現が気になる。いずれ行うべき施策だとは思いますが、表現を変えるべきではないか。

- ・有料化を行うとすれば、かなりの周知期間が必要である。急に決定したからすぐできるというものではない。やるかやらないかは別として、議論や検討については早期に行うべきである。
 - ・いつからやるかということを決めてやるくらいの姿勢が重要だと思う。
 - ・今まで計画を策定した後に、それで満足してしまい、具体的な施策についての検討が不足していたという経緯があるため、できるだけ早めに議論していくことが重要かと思う。
- ⇒最終的に、審議会としては、有料化が本当に必要かどうかも含めて、平成28年早々に具体的な検討・審議を始めるという結論に至る。

(ふれあい収集について)

- ・高齢化に対しては、ふれあい収集などが必要かと思う。先進事例などをもとに審議していきたい。

(2) 平成28年度の取組について

- ① 廃棄物施策の実施状況について
⇒【資料1】について事務局より説明を行った。
- ② 平成28年度に実施する主な施策
⇒【資料2】について事務局より説明を行った。

【(2) に対する意見・質問等】

『①について』

⇒特になし

『②について』

(再生資源回収運動について)

- ・実施団体の多くは年1～2回程度の実施にとどまっていることから、回数が多くなるほど報奨金の単価を上げるなどの経済的インセンティブを設定してはどうか。

(3キリ運動について)

- ・生ごみ対策や、水切り対策について、広報などを通じて市民の意見・アイデアを募集してはどうか。
- ・個人の生ごみ対策として、野菜の皮などは水切り器具に入れると逆に水分が付着してしまうため、そのまま捨てるようにしている。

(その他)

- ・最近はお店などでマイ箸を持っていくと10円引などのサービスをしているところがあるため、そのような取組を浸透すればよいと思う。
- ・ユニバースなどが実施している、古紙などをもっていくとポイントがもらえるというような、市民にとってインセンティブが働くような取組がもっと浸透すればよいと思う。
- ・今後、個別の施策を検討していく際には、委員が16人もいるとなかなか深い話までの議論が難しく、審議会という場では時間も限られてくるため、少人数でのワーキンググループを結成して、事前に議論を練ってから審議会で議論をするという方法もよいと思う。
- ・弘前大学の学生向けには、ごみの分け方・出し方の出前講座を今年度実施したとのことだが、市内には大学が4つあるため、他にも波及させてほしい。

3 閉 会